

世界のブドウ市場(抜粋)

FreshPlaza 2023年8月25日

オランダでは、南ヨーロッパ諸国の猛暑に関連してブドウの供給に問題があり、高品質のブドウの入手が著しく難しくなっている。しかし、品質の良いブドウが30～40%減少し、スーパー等での販売に適さない品質の低いブドウが多いにもかかわらず、需要は依然として高く比較的安定した市場を維持している。

ドイツでは対照的なシナリオを反映しており、ブドウ品種の品揃えの拡充が消費者の需要を満たしている。豊富なブドウ生産で知られるイタリアは、悪天候や病害により、収量の大幅な低下(前年比最大30%減少)に対処している。生産量の減少にもかかわらず、市場のダイナミクスは価格を安定させ、生産者に前向きな見通しを提示している。最初のトルコ産スルタナ品種が入荷し、需要は非常に高い。トルコの熱波により、業者は収量と出荷量の減少を見込んでいる。

フランスのブドウシーズンは始まったばかりで、醸造用のムスカット種が先導しており、今年は品質も量も優れている。フランス南西部のモアサック地域のシャスラ品種は、予定より少し早く入荷している。全般的に、2023年産については生産者らは品質に関して非常に楽観的で、ある業者は良いシーズンになると見ている。イタリアの品種である「イタリア」も現在フランス市場に入荷している。取引に関しては、需要にわずかな懸念がある。業者らは核果類よりも市況が良いことを望んでいる。

イタリアではシチリアの2023年の出荷シーズンが、通常より約2週間遅れて始まった。それは通常、温室栽培の早生品種で5月に始まり、12月の晩生品種で終わる。しかし、今年は秋の終わりまでに出荷が終了し、出荷量が少なくとも30%減少するリスクが高い。プーリア州の生食用ブドウは、べと病の蔓延とその結果としての生産コストの少なくとも20～30%の増加により、生産量が約30%減少すると見られる。

スペインのブドウの収穫は、これまでのところ熱波の影響を受けておらず、イタリアやエジプトとの競争が通常よりも少ないという恩恵を受けている。遠方の目的地への輸出に関しては、海上輸送が前年よりも迅速で運賃が手頃なため、スペインの輸出業者らは今年により良い見通しを持っており、アジア、カナダ、米国、南アフリカの市場で良い出荷シーズンにできると考えている。

ポルトガルでは、今年は白ブドウの収穫が予定より1週間早く始まった。ポルトガル市場の需要は昨年よりも高い。オランダ、ベルギー、英国向けの輸出は2週間前に始まり、今はポーランドも組み込まれている。今年、ブドウの輸出が40%急増すると予測されており、その力強い輸出の可能性で際立っている。早い収穫、温暖な気候、需要の高まりにより、有望な季節となっている。

南アフリカでは、ブドウの出荷は数か月先で、リンポポ州では早い品種が発芽している。西ケープ州では雨と雪の多い冬の天候に満足している。冬場の条件が良好なため実り多いブドウシーズンを期待している。一方、エジプト産早生ブドウの輸入に品質上の懸念が生じた。北米、特にカリフォルニア州からのブドウの供給はピークに達しており、小売業者らはこの最も品質の高い時期を活用している。

北米のカリフォルニア州では、収穫は5月下旬に始まり1月まで続くが、最盛期は7月中旬に始まり、12月の下旬まで続く。まだ分からないのは、週末の熱帯暴風雨ヒラリーの影響である。ある生産・出荷業者は、産地のほぼ全域でかなりの雨が降ったと言いき、雨は熟したブドウに損傷を与える可能性があるため、一部の生産者は果実を保護するために予防策を講じていると指摘する。この業者は、ある程度の影響が出ると見られ、すべての被害を査定するには数日ないし1週間かかるだろうと言う。需要は強く、価格は昨年よりやや高い。

ペルーは、異常気象や輸送の混乱などの問題にも関わらず、主要なブドウ輸出国として台頭してきている。日本などの新規市場への参入は、この業界の回復力と適応力を示している。業界団体は、(日本には)1億2,500万人の潜在的な消費者がいる一方、同業界は1,700万米ドル以上の生食用ブドウの潜在的な輸出力を有しており、他の輸出国に比べてかなり多い26品種のブドウの参入を日本が承認したので、大量の輸出が見込まれるとしている。

訳注: 国ごとに、原文中で2か所以上に分散した記述を抜粋・統合している場合があります。